様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　４月１８日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：20520700
研究課題名（和文）中国南部少数民族の族譜に関する文化人類学的研究

研究課題名（英文）Cultural Anthropological Study on Written Genealogies of Minorities in South China

研究代表者
瀬川　昌久（SEGAWA MASAHISA）
東北大学・東北アジア研究センター・教授
研究者番号：00187832

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文化人類学・　文化人類学・民俗学
キーワード：中国、少数民族、族譜、文化人類学

１．研究計画の概要

本研究は、従来の族譜研究を基礎に据えながら、特に中国南部に暮らす少数民族の人々の編纂した族譜に着目し、そこに現れる漢族文化の受容過程や漢族社会への連接過程の解明を目指す。また、規範化された族譜様式には収まりきれない諸要素の抽出によって、こうした中国社会の周縁部の人々が、どのようにして地域社会内部のローカルな民族文化や地方文化と中国的様式との間の折り合いをつけつつ、「中国人」と「少数民族」の狭間を生きているのかを、具体個別的に解明してゆくことを目指す。

２．研究の進捗状況

広東省民族研究所（現・広東省民族・宗教研究院）でこれまでに収集した族譜資料について、その整理作業（リスト作成、ページ振り、インデックス作成等）ならびに一部資料についての分析を行った。また形のゆがみなどを PC 上でレタッチソフトなどを用いて修正する作業を行い、主要な族譜についてこれを完成させた。

内容分析に関しては、主に広東省北部南雄市地域のショオ族の族譜に関して、清代から民国期にかけて編纂された族譜と、１９９０年代に編纂された最新バージョンのそれとの比較から、同じく族譜という形式を引き継ぎながらも、現代的社会文脈の中で新たに編纂された族譜は、それが主張する社会的正統性の内容について、旧来の族譜とは非常に異なった性格を有していること等を解明した。さらには、これらショオ族の族譜が、漢族の中の客家系宗族や広東本地人宗族の移住伝承を取り入れていることをも明らかにし、その背景として考えられる点を仮説化した。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

計画通りに中国南部の少数民族の族譜資料の収集ならびにその整理が進行している。また、その分析を通じて、いくつかの興味深い事実が明らかになってきており、当初の想定の通り、中国少数民族の族譜が極めて興味深い研究対象であることが確認されつつある。一例を挙げれば、現代バージョンの族譜は、少数民族籍獲得運動において重要な根拠資料としての機能を果たすなど、前近代的なコンテキストとは全く異なる社会的機能を発揮していることなど。

４．今後の研究の推進方策

当初の計画通り、収集した少数民族の族譜について整理と分析を行い、それを最終年度である平成２３年度内に資料集として完成させる。

特に詳細な読解と分析を行う対象として選定する族譜資料は、広東省北部地域のショオ族のものを中心に、同省中部の回族のもの、同省西部のチワン族のもの等を予定している。これらの族譜の選定は、特に少数民族の漢族文化への同化についての考察において重要な意味を有する点や、１９８０年代以降の少数民族籍認定要求運動との関係において注目される点を中心に行う。

これらの作業の結果として生成される資料集は、研究者コミュニティーの同業研究者の参照・閲覧に広く供するべく、印刷して簡易製本し、配布することを計画している。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

①瀬川昌久、「中国、台湾、日本の学術書ならびに一般書における「客家」のイメージ形成過程の研究」、『東北アジア研究』、14巻、 97-121 頁、2010 年、査読有り。

②瀬川昌久、「海に向かった華南の人々」、『季刊民族学』、133 巻、40－43 頁、2010 年、査読無し。

③瀬川昌久、「海南島黎族の事例―清末から現在に至る黎族と漢族諸集団の相互関係」、岡洋樹編『内なる他者＝周辺民族の自己認識のなかの「中国」』、東北大学東北アジア研究センター・東北アジア研究シリーズ 10、53－76 頁、2009 年、査読無し。

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕